

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	13-020	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption before and after breast cancer diagnosis: associations with survival from breast cancer, cardiovascular disease, and other causes. 乳癌診断前後の飲酒について：乳癌、循環器疾患、他疾患による生存率との関連の検討		
<b>執筆者</b>		
Newcomb PA, Kampman E, Trentham-Dietz A, Egan KM, Titus LJ, Baron JA, Hampton JM, Passarelli MN, Willett WC.		
<b>掲載誌</b>		
J Clin Oncol. 2013 Jun 1;31(16):1939-46. doi: 10.1200/JCO.2012.46.5765.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
乳癌、乳癌の予後、飲酒、循環器疾患、全死亡		23569314
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 飲酒は乳癌のリスク増加と関連がある。それとは対照的に、飲酒と乳癌の予後については明らかではない。</p> <p><b>方法：</b> 1998年から2001年の間で浸潤性乳癌と診断されたウィスコンシン、マサチューセッツ、ニューハンプシャー州に住む20-79歳の女性22,890人の集団において、乳癌診断前後の飲酒について評価した。診断前の飲酒については全ての女性から情報を得たが、診断後の飲酒については4,881人のサブ集団から回答を得た。</p> <p><b>結果：</b> 乳癌診断後から平均追跡期間は11.3年で、7,780人が死亡し、3,484人は乳癌が原因であった。診断前の中等度の飲酒（週1-2回、3-6回、7-9回、10回以上）は、非飲酒者と比較して、疾患特異的な予後に軽度関連していた（それぞれのハザード比および95%信頼区間は以下の通り。0.93 [0.85-1.02], 0.85 [0.75-0.95], 0.88 [0.75-1.02], 0.89 [0.77-1.04]）。診断後の飲酒については、関連を認めなかった。これらの結果は飲酒の種類により変化しなかった。診断前後に中等度の飲酒をする乳癌女性は、非飲酒者に比して、循環器疾患および全死亡に対する予後が良かった。</p> <p><b>結論：</b> 総じて乳癌診断前の飲酒は疾患特異的な予後とは関連がなかったが、中等度の飲酒は良い影響を与える可能性が示唆される。診断後の飲酒と乳癌の予後については関連を認めなかった。本研究結果は、乳癌女性において循環器疾患や全死亡に対して飲酒がもたらす利益を支持するものである。</p>		